

ボランティア・市民活動を広げ、応援する！

ネットワーク

Network

NO.378 2022年

6月号

特集

With コロナ時代の『リモート・ボランティア』

～はなれていても、つながれる～

新連載 『ネットワーク』編集委員企画
ウクライナのフリースクールと
民主ラティック教育

セルフヘルプという力 第31回

篠田さん
非正規雇用、シングル女性として生きる
ということ

いいもの みい～つけた！ vol.37
NPO 法人テツプロ
鉄の街で、鉄を用いたまちづくり

TVAC相談窓口から
1年間の相談を振り返って
(2021年度)



深める

ボランティア・市民活動に役立つ視点や情報をお届けします。



With コロナ時代の『リモート・ボランティア』 ～はなれていても、つながれる～

3 With コロナ時代の『リモート・ボランティア』

～はなれていても、つながれる～

◇東京ボランティア・市民活動センター／夏ボラ担当

7 **活動事例** 多彩に広がるリモート・ボランティア !!

9 『2022 夏のリモート・ボランティア+(プラス)』 参加者募集！

10 **寄稿** 新しい社会貢献のカタチ デロイト トーマツ グループ 『秋のリモート・ボランティア』

人・社会・地球の Well-being をめざして

◇田中 祥子 デロイト トーマツ コーポレート ソリューション合同会社
C&I/BM CSR Team, チームリーダー

13 TVAC 相談窓口から 1年間の相談を振り返って (2021年度)

知る

ボランティア・市民活動のさまざまな形やボランティアに
一歩ふみだすヒントを、ご紹介します。

17 **新連載** 『ネットワーク』編集委員企画 第1回

ウクライナのフリースクールとデモクラティック教育

◇TDU・隼穿大学 社会学ゼミ

21 TVAC News 連載 vol.3 東京ボランティア・市民活動センターの事業から 災害時に向けた地域の活動と「災害時のための市民協働 東京憲章」

22 つぶやきブレイク vol.22 湯に浸かりて見えしもの

23 セルフヘルプという力 第31回 非正規雇用、シングル女性として生きるということ 篠田さん

26 いいもの みい〜つけた！ vol.37 NPO 法人テツプロ 鉄の街で、鉄を用いたまちづくり

もしもボランティア活動中に怪我をしたら… 怪我をさせたり、物を壊したら…

※ボランティア保険および行事保険の加入は、東京都内の各区市町村のボランティアセンターまたは東京都社会福祉協議会窓口で手続きができます。



東京都社会福祉協議会指定生損保代理店
有限会社 東京福祉企画

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂1-2
研究社英語センタービル 3階

TEL. 03-3268-0910
FAX. 03-3268-8832
URL. <http://www.tokyo-fk.com/>

特集

Withコロナ時代の『リモート・ボランティア』 ～はなれていても、つながれる～

2020年、新型コロナウイルスの影響により、実際に活動先に行き、対面で関わることを主とするボランティア活動の実施が困難になった。TVACをはじめ、地域のボランティアセンターで力を入れてきた「夏の体験ボランティア」が中止となるなか、福祉施設の利用者などから「ボランティアさんが来なくて寂しい」といった声があり、一方、TVACには「ボランティア活動をしたい」「こんな状況だからこそ何かできることはないか」といった問い合わせが寄せられた。

そこで、TVACではコロナ禍でも人と人が支え合えるように、在宅やオンラインで参加する「夏のリモート・ボランティア2020」を企画。その結果、予想以上の反響があり、21年度もプログラムをさらに充実させて開催した。

TVACでは、こうした2年の実践経験から、リモート・ボランティア（以下リモボラ）ならではの利点が多くあることを知り、同時に判明した課題に配慮しつつ、今後は対面のボランティアと並行してリモボラを企画していく予定である。

今号では、リモボラの特徴や課題、行う上での留意点などを紹介し、受け入れ側と活動者への取材を通して、ボランティアの一つの形として、その可能性を考えたい。

※ TVAC = 東京ボランティア・市民活動センター

Wiethコロナ時代の『リモート・ボランティア』

くはなれていてもつながれるく

東京ボランティア・市民活動センター
夏ボラ担当

今から2年前の春、東京ボランティア・市民活動センター（以下、TVAC）と都内の地域のボランティアセンターは大きな決断をしました。1980年から40年間、連携して実施してきた夏の体験ボランティア事業を「キャンペーン」として実施することを中止したのです。

その背景には、新型コロナウイルス（以下、新型コロナウイルス）の感染拡大がありました。こうした状況の中から誕生したのが、「リモート・ボランティア」です。

リモート・ボランティアとは？

リモート・ボランティアとは、ボランティア活動の現場に行かずに、在宅から郵送・宅配やオンラインで参加できるボランティア活動のことです。2020年4月、新型コロナウイルスの感染が広がりつつある中でもできるボランティア活動として、TVACが名づけ、福祉施設やNPO等の市民活動団体とともにさまざまなプログラムを開発し、実施してきました。オンラインで交流するものもあれば、ハガキやカード、工作やア

ト作品を郵送や宅配するオフラインの活動もあります。

新型コロナウイルスでボランティア活動ができない!!

当時は感染の第1波の中で初めての緊急事態宣言が発出され、都内の福祉施設では、感染すると重症化しやすい利用者の方々を守るために、外部との交流を制限し、家族でも面会に行けず、ボランティアの受入も中止するという非常事態となっていました。また、子どもや高齢の方、病気や障害のある方、外国にルーツのある方等を支援している市民活動団体も、実際に会うことが難しくなりました。そして、街や河川のクリーンアップ、里山や森林の保護など、野外での活動であっても、人が集まったり、そこに行くまでの交通機関での感染が心配され、延期や中止が余儀なくされていたのです。

ボランティアが来ないことで、福祉施設は職員だけで利用者の方々のお世話をすることになり、大変忙しくて、一人ひとりとゆっくり会話することも困難になりました。また、

施設内外でのイベントもなくなり、「利用者の方々の元気がなくなってきた」という声をたくさん聞きました。地域社会の中で活動している市民活動団体も、相手の方と会わずに支援をどのようにして届けるのか、どうやって活動を継続するのかを模索していたのです。

一方で、「コロナ禍で自分に何かできることはないか？」という一般市民の方々からの問い合わせも多々いただきました。

「夏の体験ボランティア」キャンペーンが中止に

こうした状況の中で、TVACも各地のボランティアセンターも、コロナ禍において人と人が支えあうボランティア活動をどのように推進・支援すればよいのか？という大きな課題にぶつかりました。特に夏の間は、TVACと都内50か所以上のボランティアセンターが共催して、「夏の体験ボランティア」キャンペーン

を実施しています。

この事業は、ボランティア活動のきっかけづくりとして毎年実施されており、新型コロナウイルス前の2019年度は、中高生を中心に、延べ1万人以上が参加していました。そして、福祉施設や市民活動団体での約3000のボランティア活動のプログラムは、ほぼ全て、人と人とが会う「対面ボランティア」の活動です。そこで、TVACと地域のボランティアセンターは、東京都全体の「キャンペーン」という形での実施は難しいと判断し、それぞれのボランティアセンターが感染防止を配慮し、できる形を模索することにしました。

施設ご利用者が書いた絵手紙の写真



写真① 特別養護老人ホームアトリエ村のご高齢の利用者の方々に暑中見舞い状や残暑見舞い状を送ると、お礼に利用者の方々が描いた絵手紙が届いた！



チラシ① アート活動に力をいれているイタル成城では、障害のある利用者の方々とボランティアが『私の星』を作成し、Instagram上に『未来の宇宙』が誕生した。これはそれを印刷した広報チラシ。

リモートでのボランティアを企画

TVACでは、現地に行かなくても、会わなくてもできるボランティア活動がないかと、日頃からお世話になっている福祉施設や市民活動団体と相談して、8つのプログラムを企画しました。

こうしたプログラムを大きく3つに分類すると、暑中見舞いなどを送る「ハガキ系」、折り紙やアート作品などを作る「工作系」、そして、Web会議用のアプリを使って、交流したり、学んだりする「オンライン系」があります。

まず、「ハガキ系」の活動ですが、都内の高齢者施設の利用者の方々に、暑中見舞いや残暑見舞いを郵送またはInstagramで送ろうというものです。参加希望者には高齢者施設の様子や担当職員の方からの

メッセージを事前に動画で見てもらい、夏らしい絵や写真を添えたメッセージを施設に送ります。受け取った施設の方々が、送ってくれた人を想像しやすいように、「中野区在住高校2年生 バスケ大好き男子より」といったように、ニックネームや簡単な自己紹介を書きます。送られたハガキは施設内で展示・回覧され、Instagramに掲載されたものはタブレットやPCを使って、利用者の方々に見ていただきました。そして、施設からは利用者の方々が描いた絵手紙を送ったり(写真①)、お礼のメッセージをTVACのウェブサイトに掲載しました。

次に、「工作系」の活動は、折り紙で花を作って高齢者施設に送り、敬老の日を利用者の方々の胸に飾ってお祝いしました。また、アートに力をいれている障害のある人たちの施設では、毎年実施している美術展が

新型コロナのために中止となったので、利用者の方々とボランティアが各自で「私の星」を作成してInstagramにアップし

たものが、最終的には『未来の宇宙』という大きなアート作品になりました(チラシ①)。

最後に、「オンライン系」ですが、ZoomというWeb会議用のアプリを使って、いろいろなプログラムを実施しました。例えば、高齢者施設の皆さんのために、ボランティアが特技を披露したり、高校受験のために勉強している外国ルーツの若者たちのために、現役の高校生たちが自分たちの学校や学校生活について紹介しました。また、聴覚障害のある高校生から手話を教えてもらいながら交流したり、視覚障害のある人たち等のために、ボランティアが自分のPCを使って、本をテキストデータ化したものを国会図書館に寄贈しました。このデータを視覚障害等のある方々が自分のデバイスで音声化することにより、本を読むことができるようになります。

こうした1年目の『夏のリモート・ボランティア』は大きな反響がありました。参加者は750名。最も多かったのは中高生でしたが、大学生や社会人の参加も少なくありませんでした。リモートなので、全国各地から参加があり、中には、父親の赴

任先であるインドネシアから参加した高校生もいました。「会社として参加したい」という希望も7社からありました。さらに、新聞やラジオ、インターネットニュースなどのメディアでも取り上げられ、韓国テレビからの取材も。

大きな反響とリモート・ボランティアの可能性

活動後の参加者アンケートからわかったことは、リモート・ボランティアは、ボランティア活動に関心があつたけれど、なかなか一歩が踏み出せなかった人たちのハードルを下げることでできたということです。今回、リモートで参加した人たちは、「また、参加したい」「新型コロナが落ち着いたら、実際に会いに行きたい」といった声も多くありました。障害のある人たちの参加もあり、リモート・ボランティアは、時間や空間、心理、障害というさまざまな「壁」を乗り越えられる可能性がありそうです。

海外でも、「virtual volunteer (バーチャル・ボランティア)」という呼び方で、新型コロナのために苦しんでいる人たちのために、さまざまな支援活動が展開されています。こうした、現地に行かない、自宅から参加できる、オンラインでできるといったボランティア活動は、現代の忙しい人たちも参加できる方法として、欧米では以前から取り組まれていたようです。



チャラシ② 2021度は31の多彩なりもーと・ボランティア・プログラムに、子どもからシニアまで、1,174名の申し込みがあった。

2年目で多彩に広がる リモート・プログラム

TVACは『夏のリモート・ボランティア2020』以外にも、福祉施設・市民活動団体や企業・社員と一緒に、オンラインでのボランティア活動の開発に取り組みました。こうした経験を活かし、2年目となる『夏のリモート・ボランティア2021』（チャラシ②）では、より多くの福祉施設・市民活動団体に呼びかけ、31の多彩なプログラムを用意することができました。

「ハガキ系」は中高生にとっても人気がありました。同じ東京都でありながら、なかなかボランティアが行くことが難しい三宅島の高齢者施設にも暑中見舞い状を送りました。そして、「工作系」。重度の障害のある人たちが生活している施設では、新

型コロナのため
に外出もままな
らないので、ボ
ランティアが手
作りした夏らし
い作品（絵、折
り紙、工作など）
を送って、施設
内に飾っていた
できました。ま
た、障害のある

人たちの施設と地域の人たちとの交流イベントのために、チャラシを作成したボランティアも。海外の子どもたちのために日本の絵本に現地の言葉の翻訳を貼ってプレゼントする活動（写真②）もありました。「オンライン系」では、障害のあるアートのモデルになるボランティアや、河川のゴミ問題について学んだ後にマイクロプラスチックでアクセサリーを作る活動、オンラインでつながりながら、自分たちの暮らすまちの安全をチェックする活動（写真③）など、さまざまなリモート・ボランティアのプログラムが展開されました。

世代によって参加方法に違いが

2年目として実施した『リモート・ボランティア2021』には1174名の申し込みがありまし

た。この1174名の参加申込者の内訳をみると、最も多いのが、中学生・高校生で816名（69・5%）。次に多いのが、大学生・専門学校生は161名（13・8%）、そして、社会人は184名（15・7%）、その他は13名（1・0%）となっています。「ハガキ系」「工作系」「オンライン系」のタイプ別で見ると、中学生・高校生に最も人気があったのは「ハガキ系」、次が「工作系」、そして「オンライン系」となっています。大学生・専門学校生では、「オンライン系」が最も人気があります。社会人では、一番が「工作系」、そして、「オンライン系」の参加が多くなっています。大学生や社会人の方々が中高生たちより「オンライン系」に参加しやすいのかもしれない。

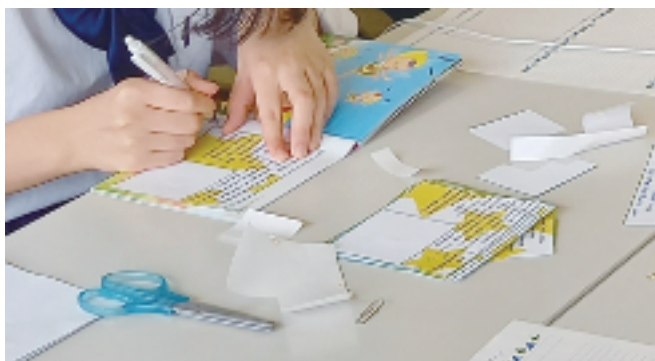
企業各社とも、秋、冬、春に実施

昨年、上記の『夏のリモート・ボランティア2021』の他にも、「会社として、リモート・ボランティアを実施したい」という希望があり、デロイトトーマツグループと『秋のリモート・ボランティア』を、サ

ノファイ株式会社と『冬のリモート・ボランティア』を、セガサミーホールディングス株式会社と『早春のリモート・ボランティア』を実施しました。

プログラムの内容は『夏のリモート・ボランティア2021』をベースにしながら、福祉施設・市民活動団体の新たなニーズや希望と、企業・社員の関心やスキルなどを考慮してアレンジしたものもあります。例えば、外国ルーツの子どもたちや児童福祉施設の子どもたちに対して、自分たちの仕事を紹介したり、仕事について考えるワークショップをオンラインで開催しました。また、前述の視覚障害のある人たちのための本のテキスト化や、精神障害のある人たちの施設のホームページや動画の英訳も人気がありました。

また、TVACでは、新型コロナウイルス前に、企業の新入研修として、研修生が福祉施設や市民活動団体を実際に訪問してボランティア体験をしていましたが、これも新型コロナウイルスで実施できなくなり、オンラインで実施することにしました（詳細については8ページ参照）。オンラインでの研修であっても、社会の多様性や課題を知り、自分たちに何ができるかを考える機会になっています。

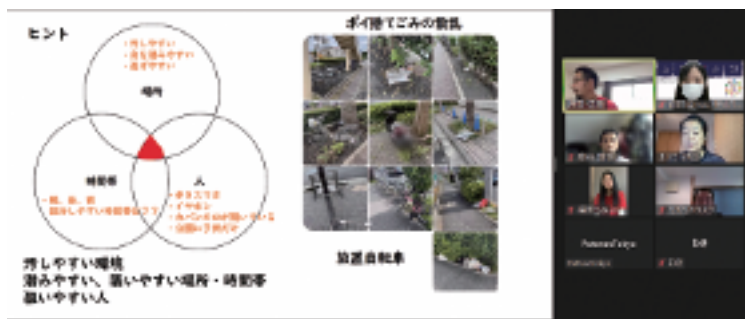


写真② 三宅島の高校生たちがNPO法人地球の友と歩む会が実施する絵本に翻訳を貼る活動を体験した。絵本はインドネシアの島の子どもたちにプレゼントされる。

リモート・ボランティアの課題とは？

さまざまなよい効果を持つリモート・ボランティアですが、実施にあたって気を付けなくてはいけないことがあることもわかってきました。

まず、個人情報の保護です。郵送・宅配する場合はボランティアの個人の名前や住所が記載されるので、その適正な管理が施設・団体に求められます。また、広報誌やインターネットに掲載する場合は必ず事前に施設・団体またはボランティア（未成年の場合は保護者も）の許可を得ておく必要があります。Web会議のアプリを使ってオンラインで交流す



写真③ パトロールしながらランニングする活動をしているパトラン東京では、参加者とオンラインでつながりながら、参加者が自分たちの住んでいる街の安全チェックをした。

る場合は、参加する人たちの個人の名前や映像が外に出ないように参加者が動画撮影やスクリーンショットをしないようにしました。また、SNSに投稿する場合は、未成年の子どもたちが知らない人たちとつながってしまったら、企業のPCからはセキュリティの関係でアクセスできないという課題があります。そこで、参加者が直接投稿するのではなく、TVACや施設・団体が代わりに投稿するようにしました。

次に、著作権の問題です。公益社

団法人著作権情報センターによると、楽曲などをインターネットで配信すると「公衆配信」となり、著作権の侵害になる場合があるようです。一般社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）が著作権を管理する楽曲をボランティア本人が歌ったり、演奏することが認められているSNSもありますが、Web会議のアプリなどで認められていないものがあります（QRコード参照）。

インターネットでの本の読み聞かせや工作物も著作権侵害になることがありますので、著作権フリーのもの（作者没後70年以上たったものやオリジナルなもの）を使うか、必ず、事前に作者または著作権協会など、著作権を管理するところの許可を得るようにします。

リモートと対面と、ハイブリッドの時代に

「Withコロナの時代」として、これからは、感染対策をしながら生活していくことになりそうです。新型コロナウイルスの感染が拡大している時はリモート中心でボランティアをし、落ち着いている時は対面での活動も可能となります。

コロナ禍で、在宅勤務が広がり、通勤時間の分をボランティアなど仕事以外のことに使うことも可能とな

りました。また、在宅勤務の社員が会社や社会から孤立しないように、リモート・ボランティアでつながるというニーズもあるようです。

こうしたことから、感染状況が落ち着いた「Afterコロナの時代」においても、現代の忙しい人たちが、できるときに自宅やオンラインで参加するリモート・ボランティアという参加の形は求められるのではないのでしょうか。

ボランティアセンターや福祉施設・市民活動団体はリモート・ボランティアによって多様な人と人とのつながりやボランティア活動のきっかけを作り、その後、可能な時には対面で参加してもらおうような流れを作っていくべきだと思います。一方で、対面ボランティアを安全に再開していくための対策も急がなければなりません。

リモート・ボランティアと対面ボランティアと、ボランティア活動の「ハイブリッドの時代」が日本でも始まろうとしています。



JASRAC

〔活動事例〕多彩に広がるリモート・ボランティア!!

高齡者施設での取り組み

江戸川区にある高齡者施設、なぎさ和楽苑では、コロナ禍で家族やボランティアとも会えない入居者の方々とボランティアをオンラインでつなぐさまざまな試みが行われています。

『夏のリモート・ボランティア2021』では、ボランティアの人たちに写真④のようなちわを手作りして送ってもらい、敬老の日をお祝いしました。

そして、秋にはデロイトトーマツグループの在宅勤務をしている女性たちと、女性の利用者さんとの『オンライン女子会』を開催。働きながら子育てをしていく大変さを語



写真④ ボランティアの手作り
のうちわ



社会福祉法人 東京英和会
なぎさ和楽苑

り合いました。参加した社員の方は「大変な時代の中で働きながら子育てをしてきて、今が幸せだという言葉に励まされました」と言います。いろいろな経験を若い人たちに語った高齡の女性の方たちも「とっても楽しかった」と、表情が明るくなり、帰りの足取りが軽やかだったそうです。

なぎさ和楽苑では新型コロナ前は年間約5000人のボランティアを受け入れていました。その多くは地元で暮らしているご高齡の方々です。こうしたボランティアの方々と利用者さんとのつながりを再構築しようと、施設からIT機材を貸し出し、その使い方を説明するといった取り組みも始まっています。

子育てひろばでの取り組み

乳幼児とその親が遊びにきたり、育児の相談が気軽にできる「子育てひろば」は全国各地にあります。文京区にある子育てひろば江戸川橋は、元中学校の校舎だったところをリニューアルした総合福祉施設の中にあり、障害のある人たちの施設や高齡の方々のための施設も別の階に入っています。

『夏のリモート・ボランティア2021』では、ボランティアの人たちが作って送ってくれた海の生き物で廊下を飾り、「海のトンネル」ができました(写真⑤)。この様子は動画としても施設のホームページに掲載されています。

また、冬には、音楽絵本『マクのクリスマス』の著者であるわたなべゆうさんにご協力いただき、小熊のマクがクリスマスにひとりぼっちにならないように、ボランティアがプレゼントを作って送り、それらを来場した親子が大きなクリスマスツリーに飾りました。リモート・ボラ



写真⑤ 施設の廊下が「海のトンネル」になった。

ンティアとして参加したのはサノフィ株式会社の社員と子どもたち。素敵な手作りのプレゼントを飾りつける利用者の親子からもたくさん笑顔があふれました。この様子は動画で配信していますので、ぜひ、ごらんください。



社会福祉法人 武蔵野会
リアン文京
子育てひろば江戸川橋

障害のある人との取り組み

社会福祉法人豊心会は豊島区で精神に障害のある人たちの生活や就労を支援しています。そして、その中



写真⑥ 施設の人たちとボランティアがリモートで作成した映画

にあるハートランドみのみでは、自己表現や地域社会との交流のために演劇活動に力を入れてきました。劇団であとるみのみは利用者と演劇が好きなたちで構成され、大学で演劇を学んだという相田施設長が監督兼いろいろな役割を担っています。新型コロナウイルス前は小さな劇場で公演もしていましたが、感染防止のために中止や規模の縮小を余儀なくされました。そこで、オンラインで何かできないかと考えたのです。

まず、企業各社のボランティアと利用者の方々がオンラインでミーティングをし、精神に障害のある人と一緒にどのように働くのかをテーマにした映画『The Company：仲間たち』を作成することに（写真⑥）。相田施設長がみんなの思いを脚本にし、読み合わせもオンラインで実施。最後には、それぞれが自分のパートをスマートフォンで自撮りしたものを1つにまとめて、ついに完成しました！

その後、企業各社を対象に「上映会とトークショー」を開催。トークショーには監督や障害のある出演者の方、ボランティアの代表が動画作成の思いや苦勞を語りました。さらに、豊心会でこの映画を聴覚障害の人にも観てもらえるように日本語字幕をつけたのですが、デロイトトーマツグループのボランティア・チームにその字幕の英語翻訳をお願いし、その翻訳をセガサミーホールディングス株式会社のボランティアが動画に貼り付ける作業をリモートでしました。ハートランドみのみでは「いよいよ海外デビューだ！」と盛り上がりつつあるようです。

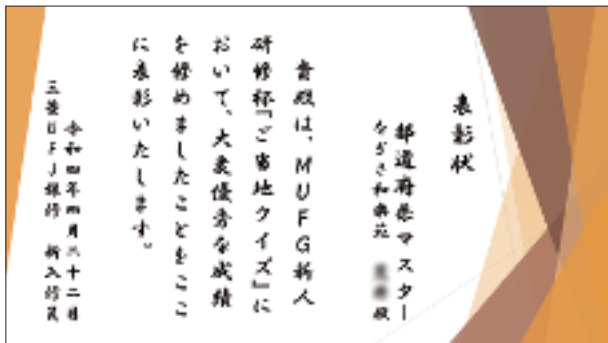


社会福祉法人 豊心会
ハートランドみのみ

企業の新任研修での取り組み

東京ボランティア・市民活動センターでは、2007年より株式会社三菱UFJ銀行の新任研修に協力してきました。新型コロナウイルス前は、都内、横浜市、名古屋、大阪市の社会福祉協議会のボランティアセンターに協力してもらい、約120か所の福祉施設に、社員が5〜6名のチームを作って出かけていき、利用者さんが喜んでくれそうな交流企画を考えて実施していました。施設の方々にも研修生にもとても好評なのですが、2年前の2020年春は新型コロナウイルスの感染拡大で中止せざるを得ませんでした。

そして、翌年の2021年度からは「オンラインを使って1日でできないか」と人事部と相談し、都内の14の福祉施設・団体と研修生が、WebexというWeb会議用のツールを利用して交流しました。まず、施設・団体から施設や利用者さんのニーズについて説明してもらい、それをもとに、社員が6〜7名ぐらいのチームに分かれて、利用者さんや職員の方に喜んでいただけそうなプレゼントや提案を行うというもので



写真⑦ 高齢者施設の利用者の方々とのオンラインでゲームやクイズをして交流した。最後に社員が作成した表彰状で盛り上がった。

す（写真⑦）。今年の各チームは、高齢であったり、障害のある利用者の方々のためにクイズやゲームをしたり、子ども食堂を利用してのひとり親のお母さんのためには子どもたちの学習支援方法を説明したり、外国ルーツの子どもたち向けに「やさしい日本語」で日本について紹介したりしました。

オンラインであり、時間の制約もありましたが、施設・団体の方々にも喜んでいただけました。研修生たちにも社会の多様性や福祉課題について考えてもらう機会になりました。

『2022夏のリモート・ボランティア+（プラス）』 参加者募集！

TVAC
からの
お知らせ

東京ボランティア・市民活動センターでは、今年も夏休みを利用して、在宅やオンラインで参加できる「リモート・ボランティア」を募集します！福祉施設や市民活動団体での多彩な活動に参加し、素敵な出会いを体験してください。例年と違うのは、感染防止対策をしっかりしながら実際に活動に出かけていく「対面ボランティア」のプログラムもいくつか用意していることです。「+（プラス）」はそのことを意味しています。

福祉施設や市民活動団体での対面のボランティア活動では、高齢の方や障害のある方、子どもたちなど、感染すると重症化しやすい方もいます。こうした方々の安全と、そして、ボランティア自身の安全のために、本センターでは、ボランティアを受け入れる施設や団体の方と相談し、準備をしています。

また、ボランティア参加希望者の方々にも、1週間前から体温や体調のチェックシートをつけていただき、感染防止に心がけるといいう「参加同意書」にもサインしていただきます。安全対策をしっかりとしながら、対面のボランティアを体験してみましょう！

なお、新型コロナウイルスの感染が拡大し「非常事態宣言」や「まん延防止等措置」が発出した場合は、対面ボランティアの活動は延期または中止させていただきます。



「withコロナ」の時代に、在宅やオンラインでできる「リモート・ボランティア」を体験してみませんか？ また、今年は感染防止に気をつけながら、実際に活動先に行く「対面ボランティア」も実施します。だから、「+（プラス）」です。高齢の方・障害のある方や子どもたちとの交流、環境保護、防犯、海外協力など、さまざまなボランティア活動があります。子どもからシニアまで、ご参加お待ちしております！

実施時期 2022年7月～9月
※活動日はプログラムによって異なります

実施場所 オンラインや在宅 および 都内各地

ボランティア活動例

【リモート・ボランティア：30程度】

- 絵はがきなどを高齢の方々に送る
- 手作りのものを障害のある人たちや子どもたちに送る
- オンラインで環境保護を学ぶ など

【対面ボランティア：5程度】

- 障害のある子どもたちと遊ぶ
- コロナで困っている人への食糧配布のお手伝い
- 里山や干満の保全 など

参加者の声

「リモートなので参加しやすかったです。コロナが収まったら、会いに行きます！」

「親子で一緒に作ったものを喜んでもらえて、嬉しかったです。」

「こんなにいろいろな活動があるのに、驚きました。」

「リモート・ボランティア」活動先からの声

「会えなくても、いろいろな形でつながることがわかりました。」

「コロナでなかなか外人と交流できないので、利用者の人たちがとても喜んでいました。」


「施設の中に明るい空気が流れました。」

『2022夏のリモート・ボランティア+（プラス）』とは
東京ボランティア・市民活動センターでは、ボランティア活動に興味・関心がありながら、なかなか参加するきっかけのない方々に、7～9月の夏の期間を利用してボランティアを体験していただく「夏の体験ボランティア」を1980年から実施してきました。新型コロナが感染拡大した2年前からは、活動先に実際に行き活動することができなくなりましたが、郵送やオンラインなどで離れていてもできるボランティア活動（リモート・ボランティア）を企画・実施しています。そして、今年は、新型コロナ対策をしっかりと、活動先に行く活動（対面ボランティア）が加わります。

特別協賛：デロイトトーマツグループ

主催・問合せ **東京ボランティア・市民活動センター Tokyo Voluntary Action Center**
『夏のリモート・ボランティア2022』担当

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ10階 TEL 03-3235-1171
JR(飯田橋)駅西口、地下鉄(有楽町線、東西線、南北線、大江戸線)飯田橋駅B2b出口 徒歩1分 FAX 03-3235-0050
【開館時間】火曜～土曜：9時～21時 / 日曜：9時～17時（月曜・祝日は閉館） https://www.tvac.or.jp/summer/



● お問い合わせ先

東京ボランティア・市民活動センター 夏ボラ担当

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ10階 ※ JR・地下鉄飯田橋駅から徒歩
TEL: 03-3235-1171 FAX:03-3235-0050 E-mail: natsuv@tvac.or.jp URL: https://www.tvac.or.jp
※月曜日と祝日は閉館しています。

詳細については、ウェブサイトをご覧ください
→『2022夏のリモート・ボランティア+（プラス）』



寄稿

新しい社会貢献のカタチ デロイト トーマツ グループ 「秋のリモート・ボランティア」 人・社会・地球の Well-being をめざして



田中 祥子
デロイト トーマツ コーポレート ソリューション合同会社
C&I/BM CSR Team, チームリーダー

参加を決めた理由（回答数 114、複数選択可）



「秋のリモートボランティア 2021」参加者事後アンケートより

デロイト トーマツグループは、監査法人を祖業とする、ビジネスに関わる多様な専門家を抱える組織で、監査・保証業務、リスクアドバイザリー、コンサルティング、ファイナンスアドバイザリー、税務・法務の各分野の専門家を擁し、幅広いサービスをご提供しています。また、私たちは、目指すべき社会の姿として、「人とひとの相互の共感と

信頼に基づく『Well-being（ウェルビーイング）社会』の実現を掲げています。この『Well-being 社会』とは、個人・社会・地球環境の3つのレベルで Well-being を相乗的に高めていくことが必要不可欠で、いずれかの Well-being のために他を犠牲にすることなく、3つの Well-being がすべてが充実した状態にならなければならないと考えています。



高齢者施設に送った秋のお便りの一部
(社会福祉法人豊島区社会福祉事業団・アトリエ村)

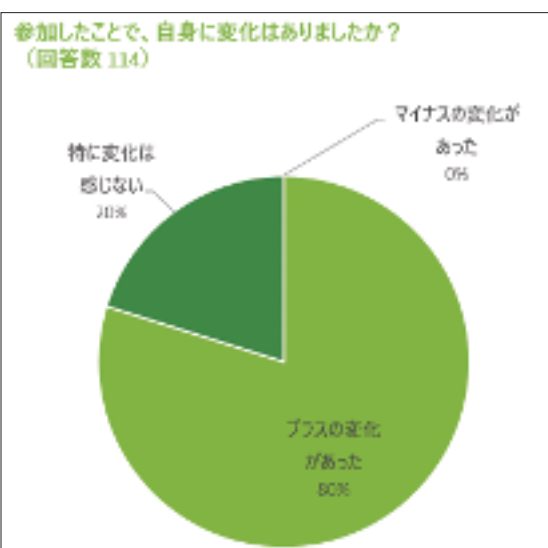
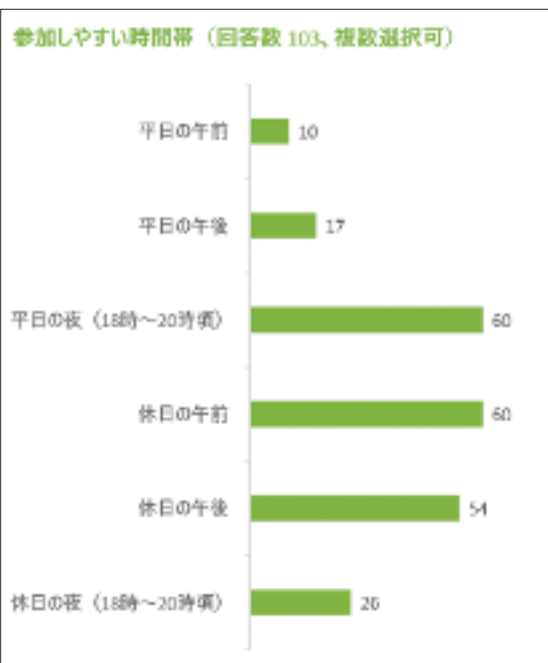


そのため、ビジネスを通して社会に貢献するだけでなく、ビジネスで接点のない人たち、接点の少ない社会問題に対しても、企業として取り組んでいきたいという思いがあるのです。

弊社でも新型コロナウイルスの流行を機に在宅勤務が主流になり、従来のように1か所に人を集めて活動するスタイルのボランティア活動の在り方を見直す必要が生じました。With コロナ、Post コロナも踏まえて、新しいボランティア活動を模索する中、東京ボランティア・市民活動センター（以下、TVAC）のご協力を得て、年5日の有給ボラン

ティア休暇制度導入のタイミンクに合わせ、「秋のリモート・ボランティア」の実現に至りました。この「秋のリモート・ボランティア」は、グループ内外の多様なメンバーと直接触れ合い、実際の対話や活動を通して Well-being に関して考え、行動するきっかけとすることを目的とした「みんなの Well-being 21秋冬」キャンペーンの一環として実施しました。経営メンバーをはじめ、グループ内の各ビジネスを代表する Well-being リーダーが率先してボランティア活動に参加し、TVACを含む15団体から18種類の活動メニューをご用意いただいた結果、予定枠を上回る、241名の参加が実現しま

した。
2021年の秋は、現在の状況と比べ、感染症の拡大状況も深刻で、その一方で長引く自粛生活の中、グループ内のメンバーの中には、社会との接点を望んでいる雰囲気が高まっていると感じていました。このような状況も多く参加者を集めることができた理由になったと思います。中には、生まれて初めてボランティア活動に参加したという人もいました。担当者としては、人のため、社会のために貢献することで、個人の Well-being も高まる人も多いのではと考えていましたが、ボランティア初参加者の澁刺とした様子を



「秋のリモート・ボランティア 2021」参加者事後アンケートより



リモート・ボランティアに参加した後、感染対策をして実際のゴミ拾いの活動を企画した。

(写真・グラフ提供=デロイト トーマツグループ)

PCの画面越しに確認し、やはり間違いないと確信しました。

一方で、正直なところ、15団体・18種類の活動メニューの運用は大変でした。今振り返ってみると、大きなトラブルもなく良くこなせたものだと思います。しかしながら、ボランティア参加者への事後アンケートによると、ボランティア参加者の関心のある社会／環境課題は多岐にわたっており、また希望するボランティア活動の内容も、自身のスキルが活かせるものから、家族と一緒に気軽に参加できるもの、普段の仕事とはまったく関係のないものなど、人によって様々であることがわかりました。ボランティアメニューを選ぶ側の立場からすると、決して多すぎるということではなかったようです。とはいえ、すべての団体の方々・すべてのボランティア参加者のニーズを100%満たせたとはいえず、運用面での改善の必要性も感じています。反省点は多々あるものの、いずれの参加者も今回の参加理由として、「人や社会の役に立ちたいから」と回答しており、このような思いを持つ仲間が社内にいることを大変嬉しく思います。また、このキャンペーンを実現できたのは、TVACの

方々との連携プレーがあつてこそ。大変感謝しております。

「秋のリモート・ボランティア」では、これまで私たちが接点のなかった団体の方々との関係性を構築することができたという点も大きな収穫となりました。一部の団体の方々のニーズにお応えし、私たちのスキルを活かしたボランティア活動を展開したり、同年12月に実施した「寄付月間」の寄付先のひとつとして、グループ内でファンドレイジング^{※注①}を実施したりしました。また、4月にはアースデー^{※注②}にちなんでイベントとして、荒川河川敷でのゴミ拾いのボランティア活動を実施する際にもご協力いただき、新たなボランティア活動を展開することもできました。今後も様々な形で協働する機会ができればと考えています。

今から50年余り前、デロイトトーマツグループの源流である監査法人創設において中心的な役割を果たした等松農夫蔵^{（ごとうのぶくらう）}が残した言葉に、「個我を脱却して大乗に附く」とあります。目先の短期的な利害得失にとらわれることなく、皆で力を合わせて高い理想の実現に邁進しようと働き

かけたのです。私たちは、こうしたグループ創設時の高邁な精神を受け継ぎ、次世代のために「Well-being society」を構築するという高い理想の実現に向けて取り組んでいます。

※注① ファンドレイジング (Fundraising) とは、民間非営利団体が活動のための資金を市民企業、行政などから集めること。

※注② アースデー (Earth Day) は地球の環境保護のために毎年開催されるイベント。1970年4月22日に米国において学生たちを中心に初めて開催され、現在では世界中で多彩なイベントが開催されている。日本においては、「アースデー東京」として2001年にスタートし、新型コロナウイルスの感染拡大のために2020年はオンライン開催となったが、昨年に続き今年も代々木公園で実施された。



Blog : デロイト トーマツグループ CSR 活動



アースデー東京 2022

1年間の相談を振り返って（2021年度）

東京ボランティア・市民活動センター（TVAC）には、市民（個人）、ボランティアグループ、市民活動団体、NPO法人、社会福祉施設、企業、行政機関、マスコミなど、さまざまな方から多数のご相談・お問い合わせが寄せられています。

■ 1年間で1万5千件の相談

2021年度の相談件数は、15007件で2020年度より件数は減りましたが、相談の内容は、組織の存続に関わる深刻なものや、労務や税務、多様な法律等が関わる複雑なものが多く寄せられました。とりわけ、分野や領域に関わらず多くの団体から「解散や活動休止を検討している」「これ以上は続けられない・耐えられない」という切実な声が寄せられ、長引くコロナで団体の体力がジワジワと削りとられ、ここまでなんとか踏ん張ってきた団体も、いよいよ存続の危機に直面していることを実感する1年となりました。

■ 相談方法と相談者の属性

◆ 来所はコロナ以前より1割減

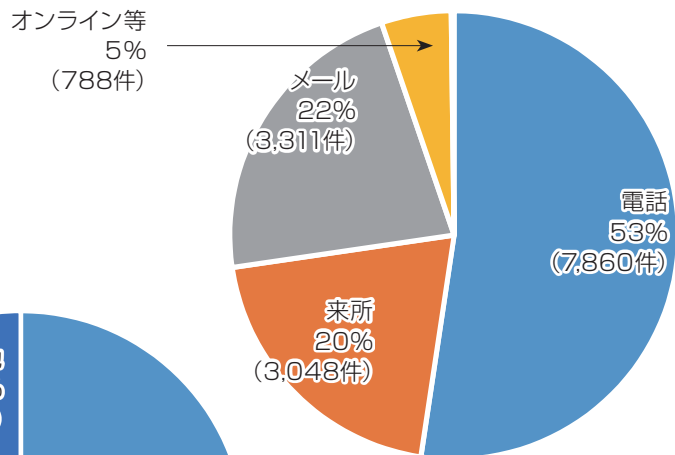
相談方法は、電話・メール・来所・手紙などがあります（図1）。2020年度に1万件以上、全体の6割にまで増加した電話による相談

は大きく減り、全体の約5割（7860件）とコロナ以前の割合に戻りました。さらに、春と夏に発出された緊急事態宣言等の影響もあり、コロナ前に全体の3割を占めていた来所相談が2021年度は全体の2割（3048件）にとどまり、代わりにメールやオンラインによる相談が増えました。

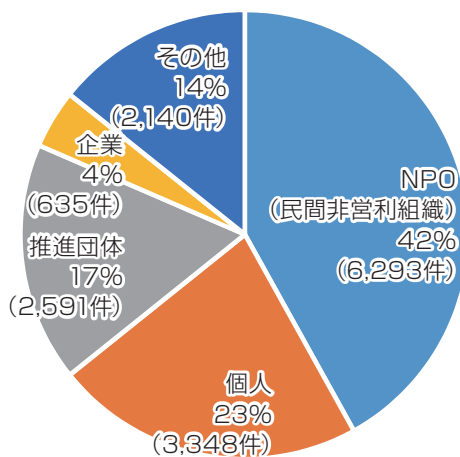
コロナ前に14%だったメールによる相談は、2021年度には22%（3311件）、コロナ前にはなかったオンライン等の相談が全体の5%となつています。TVACでは、感染対策をとった上で来所による相談の受付を継続しており、オンラインによる相談は、継続して受けている相談を中心に実施しました。

◆ 4割以上がNPOからの相談

相談者のうち、42%（6293件）がNPO（民間非営利組織）からの相談でした（図2）。ここでは「NPO」には、NPO法人だけでなく、ボランティアグループや当事者団体・セルフヘルプグループ（SHG）を含む、任意団体として活動する市民活動団体等も含まれています。なかでも、SHGからの相談は引き続き多数寄せられており、NPOからの相談のうち20%を占めています。



【図1 相談方法の内訳】



【図2 相談者の内訳】

◆ 個人からの相談が2割以上

個人からの相談は23%（3348件）とNPOに次いで2番目に多く寄せられました。相談内容は前年度に引き続き、コロナの影響を色濃く感じるものが多くありました。「コロナが原因で仕事を失った上、アパー

トの更新ができず、住まいまで失いそうだ」「長年、日雇いの仕事で暮らしてきたが、コロナで仕事がなくなつてしまった」「妻が亡くなり一人になつてしまった。外出の機会も、収入もなく、この先が不安」「生活が苦しい。所持金がわずかにあるが、こんな状況でもNPOが配っている食

糧をもらっていいのだろうか」「また、「アルバイトができません生活に困っているが、家族を頼ることができない」という一人暮らしの学生からの相談もありました。改めて、若者の困窮は社会から見えにくい状況にあることを感じます。そして、2021年

度も個人から一番多く寄せられたのは「話したい」「話を聞いてほしい」というものでした。「今は困っていないけど、いざという時に助けてくれる人とのつながりが欲しい」「とにかく誰かとつながってほしい」などの声が複数寄せられ、大きな不安を抱えている方が大変多いことを感じました。

同時に、社会や誰かのために「自分でできることを探している」という相談もありました。「子どもに関わるボランティア活動がしたい」「定年退職後の活動先を探している」など、コロナ以前の声も戻りつつあります。さらに、報道等で目にするが増えているヤングケアラーに関する問い合わせや、「ミャンマーやウクライナの人たちのためにできることはあるか」などの相談も寄せられました。コロナ前は年間1000件近く寄せられていたボランティア活動への参加を希望する相談はこの2年で大きく減少し、2021年度は514

件、全体の3%にとどまっています。

続いてボランティア・市民活動センター等の推進団体からの相談が17%（2591件）となっています。推進団体からは、従前から多く寄せられている災害・防災等に関するもの他、地域で活動するNPOやSHGの支援に関する相談が寄せられました。他に、新たなボランティア活動の取り組みに関する情報交換や、助成金などのテーマでの講座企業の相談が多数ありました。

企業等からの相談は全体の4%（635件）です。「社会福祉施設に消毒液を寄付したい」「コロナの影響を受けている人たちの支援をしているNPOに、生理用品や食料を寄付したい」「IT技術や多言語など、社員のスキルや本業を活かした社会貢献を考えている」「社員が在宅でできるボランティア活動を探している」などの相談が寄せられました。なかでも、子ども食堂やフードバンク、炊き出し活動等への関心は高く、多くの企業から寄付やボランティア参加の問い合わせがありました。時間短縮等を余儀なくされている飲食店から「お店を閉めている間、地域の人たちにお弁当を配布する活動をしたい」という相談もありました。企業等からの相談は、コロナ前

（2019年度957件）より300件ほど減少していますが、相談を通して、厳しい社会状況にあっても、多様な形で社会貢献や社会課題に取り組みようと模索する企業の姿がみえてきます。

その他、社会福祉施設や行政、学校・教育機関、保健・医療機関、マスクなど、多様な機関から相談が寄せられています。

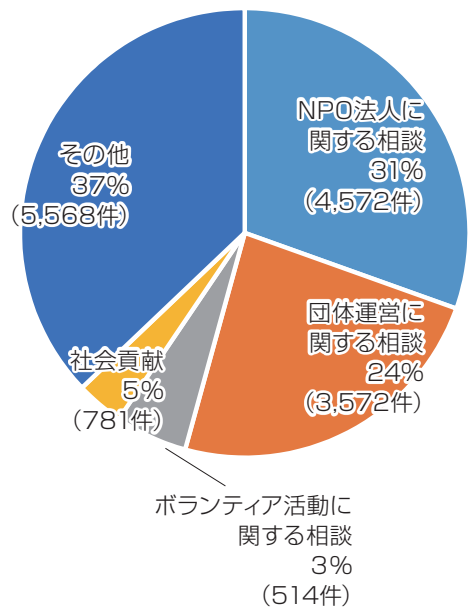
相談の内容

◆定款・総会の相談が多い

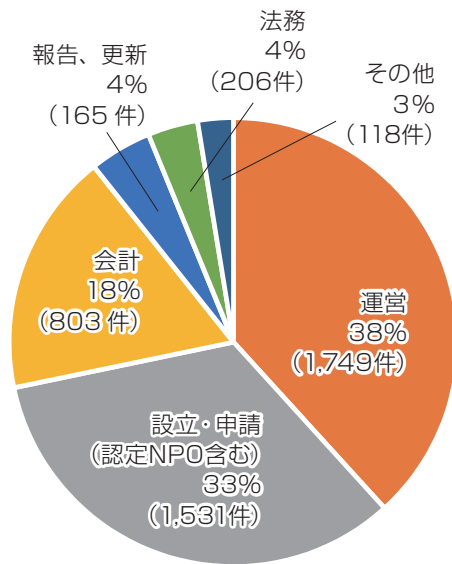
相談の内容は多岐にわたりますが、最も多いのが「NPO法人に関する相談」4572件で、全体の3割以上を占めています（図3）。この割合はここ数年、変わっていません。そのうち「運営に関する相談」が1749件と最も多く、なかでも定款・定款変更が313件、次いで総会運営に関するものが184件でした（図4）。「定款のこの部分は、どういうことを意味しているか」「うちの法人では、理事会のリモート開催は可能なのか」など、定款の内容に関わるもの他、昨今の状況を鑑みて、より社会的ニーズに即した目的・事業に変更する決断をした法人もあり、定款全体に及ぶ変更に取り組むケースもありました。

一方で、「設立・申請」の相談は1531件です。2020年度から引き続き、コロナの影響を受けている人たちのためにNPO法人を設立して活動したいという相談は多く寄せられているのですが、それでも全体で見ると2019年度の2260件より700件以上減少しています。

「設立・申請」相談のうち、認定NPO法人の申請等に関するものは381件でした。コロナ禍の当初、活動休止中の時間を使って認定申請を目指そうとした法人も多く見受けられました（2020年度は441件）、2021年度にはその動きがひと段落したように感じます。しかしながら、認定NPO法人の新規申請には、過去2事業年度分を実績として申請することが必要のため、ほとんどの法人が長期間にわたって準備に取り組むことになり、今現在も認定を目指して取り組んでいる法人は多く存在するだろうと思われるかもしれません。なお、認定申請の相談をきっかけに、定款や会計を見直す必要性が浮き彫りになったり、役員変更手続きの漏れ、登記懈怠^{けた}など、運営上必要なことの取りこぼしが明らかになる場合が少なくありません。特に2021年度には、初回に認定申請で相談を寄せた法人が、2回目以降



【図3 相談内容の内訳】



【図4 NPO 法人に関する相談内訳】

◆NPOの疲弊を感じた1年

は定款変更や会計、手続きについての相談に移行、継続相談になっていくことが多くあり、認定を目指すことが、運営全体を点検するきっかけとなっていることを改めて実感しました。

「NPO法人に関する相談」に次いで二番目に多い相談は「団体運営に関する相談」(3,572件)です(図3)。(ここにはNPO法人だけでなく

任意団体からの相談も多く含まれます。内容は、組織運営やボランティア関係、広報など、多岐にわたります。そのうち最も多いのが、イベントや講座の「企画や実施に関する相談」(705件)、次に「活動内容に関する相談」(571件)です。

「活動内容に関する相談」には、先の見通しが持てない状況でどんな工夫をすれば事業が実施できるか、あるいは、活動を継続するためにどんな方法が考えられるか、などの相談が多く含まれています。そのため「他の団体はどうしているか」という問い合わせが多くありました。2021年度は、多くの団体が本格的な活動再開に踏み切りました。コロナ前の活動を復活させる以外にも、オンラインを取り入れたり、YouTubeを活用して番組を作ったり、屋外で講座をしたりと、方法も多様化しています。さらに、これまでと異なる新しい活動を検討する団体も少なからずあり、方法・内容ともに引き続き試行錯誤をしながらの再開です。

また「団体運営に関する相談」のなかには「資金に関する相談」が507件含まれています。活動の再開に伴い広い会場を使用するための経費が膨らんだり、感染対策のために新たな備品が必要になったり、そ

もそも会費や寄付の収入が減ったため財政難に陥っている団体からの相談もあります。これまで通りの活動をするのに、これまで以上の費用がかかり、その捻出に苦心している団体がとても多くありました。コロナ関係の支援等も増えてきましたが、これまで助成金などの社会資源を活用した経験がない団体にとっては、対象となる支援策を探すだけでも大変な苦勞です。さらに、申請には会計関係の書類や記録が必要なことが多く、これまで独自のルールで会計処理してきた団体にとっては申請自体に多大な時間と労力がかかり、途中で断念するところも複数ありました。

2021年度の相談の特徴としては、過渡期や終結期、あるいは岐路にある団体からの相談が非常に多かったことです。これまでになく「内部で困ったことが起きている」という相談が多く寄せられ、法人格の有無に関わらず「トラブル」に関する相談は669件にのぼりました。ほとんどの場合、理事同士の意見の衝突や、会員からの苦情や不満、事務局と役員の認識のずれとして、相談が始まります。例えば「会議の進め方」や「役員選任の方法」など、運営上の事柄の「適切な方法が知りたい」

という話から始まり、話題が次々と変わりながら相談が続いていきます。

2021年度は、目の前にある相談内容の背景に、団体と、そこに関わる人たちの疲弊を感じるものが多くありました。「会議をしたいのに、妨害されて話し合えない」「熱が入りすぎて、メンバー間で過激で攻撃的なメールのやり取りがされるようになってしまった」「話し合いが成り立たず、一緒にやっていくのはもう難しい」「なんとか続けたかったけど、内部の調整で、疲れてしまった」などの声からは、活動への熱意は持ちつつも、心身ともに疲弊している様子が伝わってきました。長期間にわたり、これまでの活動ができない状況や、対面で集合することが難しくなりコミュニケーションの機会が減ったことの影響を感じます。それに関連して、法人の「解散」に関する相談も前年度同様、約50件寄せられました。

TVACではこれらの相談に対して、着地点を一緒に探るべく伴走しながら、会則や定款など、運営のルールに照らして状況を整理するところから始めています。複雑な相談が多いですが、多様な選択肢をもって団体や活動の「今後」を見つけ出す一助となるよう心掛けています。さら

に、必要に応じて法務相談などの専門相談につなぐ対応をしています。

◇セルフヘルプグループからの相談

2021年度も、多くのSHGから相談が寄せられました。1275件の相談の中には、新たなテーマでSHGを立ち上げたいという相談もあり、近年、当事者団体・SHGの認知が広がりつつあるように感じます。

他のNPO同様、SHGも様々な工夫を凝らして活動をしています。それまで行われていた「居場所活動」が中止になった地域に向いて「出張居場所」を始めたグループ、閉塞感漂う日々になしでも楽しみを見出せるようにと、SHG内に「趣味のサークル活動」をつくったグループ、特定のメンバーに負担が偏ることを防ぐために、複数のSHGと一緒にイベントを企画運営する形に変更したグループなど、厳しい状況下でもなんとか仲間同士のつながりを守りながら奮闘するSHGとの出会いがありました。

しかし、社会環境は引き続きSHGに厳しいものがあり「会場への名簿提出が必須になり、今まで匿名で参加できていた性暴力被害者の集ま

りができなくなった」などの声が引き続き届いています。また、多くのSHGでオンラインを取り入れていますが、オンラインで活動できるようになったことで「身近な地域とのつながりが全くなかった」という声もあります。コロナ前以上にSHGと地域とのつながりが持ちにくくなっていると感じます。さらに他のNPO同様、多数のSHGから、活動休止、解散、団体の分裂などの相談が寄せられた1年でした。従前よりSHG運営者から「自分の気持ちを吐露できるところがない」という声が寄せられていましたが、コロナでいろんなつながりが断たれ、これまで以上に気持ちを吐き出す場がなくなってしまう結果、「ギリギリまで一人でやってきて、燃え尽きてしまった」「グループをやっても、大変なだけ」「仲間吐露すると、『続けて』と説得されるから話せない」など、長引くコロナ禍で限界を迎えてしまったSHG運営者が多いことを痛感しました。

TVACでは、引き続きSHGからの多様な相談を受けるだけでなく、より一層SHG運営者同士のつながりをつくっていきけるよう、今後も積極的に取り組んでいきます。

2021年度、TVACではさまざまな相談に対応できるよう、外部研修への参加やスーパービジョンの実施、定期的な勉強会の開催、他機関相談担当者との情報交換などを通して相談員のスキルアップに取り組みました。今後も相談内容の傾向から団体の抱える課題や市民のニーズを把握し、市民活動を取り巻く状況の変化を読み取りながら、センター事業に反映させていきます。

(相談担当専門員 森玲子)

東京ボランティア・市民活動センターの相談

東京ボランティア・市民活動センターでは、NPO、ボランティアグループからの設立・運営などのご相談をお受けしています。

電話：03-3235-1171 (予約優先)



本誌編集委員（P25 参照）の視点や問題意識をもとに、編集部と一緒につくるページです。

ストークファミリースクールの子もたちが IDEC で伝統的なダンスを披露しているところ。（写真提供：NPO 法人 TDU・隼穿大学）

NPO 法人 TDU・隼穿大学（以下、隼穿大学）は、「その人自身の関心から学び、自分としての『生き方』『働き方』を模索できるオルタナティブ大学」。メディアなどでは、「18歳以上の大人のためのフリースクール」と紹介されています。TDU は、Teksien Democratic University の頭文字。代表の朝倉景樹さんは、1990年代からウクライナのフリースクールの人たちとの交流をスタートし、現在、隼穿大学では現地のフリースクールの支援活動を行っています。

デモクラティック教育について、ウクライナのフリースクールの特徴や現在の状況、日本のフリースクールについて、朝倉さんにお話を伺いました。

*ゴシック体の用語解説は20ページ参照

学びは子ども自身が決める

—— デモクラティック教育とは？

学ぶ人そのものが主役という考え方で、いつ、何を、どのように学ぶのか、子ども自身が決める学びのあり方がデモクラティック教育です。この言葉が世界で使われるようになってきたのは20世紀末（1990年代）です。

が、考え方は20世紀初め頃からあり、第一次世界大戦後に高まりました。19世紀後半は帝国主義で、資本主義列強では国家間競争に勝つために国民の教育レベルを一定の水準まで上げようという動きが高まるのですが、そうした考え方に学者・教育者たちが疑問を呈するようになります。

文明が進み、人権の保障など、明るい未来が見える兆しがあったのに、第一次世界大戦では、人間が歯車のように置き換えられていきました。子どもを戦場の歯車にするために教育を施したのかという猛省から、子どもを主役とした教育をすべき、という考え方が生まれ、1921年に「自由な学校」と言われるサマーヒル・スクールが誕生します。

ウクライナのフリースクールの特徴と現状

—— ウクライナにおけるデモクラティック教育とフリースクールの始まりは？

ウクライナがソ連の一部だった時代、教育は国に貢献する人材をつくるためのものでした。ゴルバチョフ政権時代、ペレストロイカにより改革の機運が高まり、ソ連で初めて私



雫穿大学に飾られているストークファミリースクールの子どもの作品や寄贈の記念品など。



ストークファミリースクールのロゴ。ストークは、日本語でコウノトリの意。

立学校ができます。その一つが、1990年に設立されたウクライナのストークファミリースクール。同校が子ども主体の学びを試行錯誤するなか、1991年にソ連が崩壊します。

私が最初に同校を訪れたのは1998年。当時、社会は混乱していました。夜になると、通りの両脇にみかん箱ほどのサイズの木箱が並び、そこにろうそくを灯して、お年寄りが雑貨を売っていました。働けない年配の人たちが、ものを手に入れたのは路上で売っていたのです。1日に複数回、停電もあり、「夜にエレベーターに乗ってはいけない」とよく言われました。当時、ストークファミリースクールでは「自由とは何か」という議論を大人も子どももさかんにしていました。自由を手にしたけれど、どうしたらいいのかわからなかったのです。

2014年にはマイダン革命が起こり、政権が交代します。これにより人びとは、市民が社会を変えられることを知りました。当時のウクライナには、性別による役割分業があり、子育てを担っていたのは母親たち。彼女たちは、ソ連の崩壊や革命を経験して、子どもをめぐる環境を

自分たちが変えられると考え、ファミリースクールをつくり、子ども主体の学びであるデモクラティック教育を始めたのです。

統計がないので正確な数はわからないのですが、現在、ウクライナには400〜500のフリースクールがあり、そのうちの300がキーウとその周辺にあり、創設者の9割近くが女性だと言われています。

ウクライナでは、学校に通わずに家庭を拠点として学ぶ「ホームエデュケーション」が法律上、認められています。フリースクールのほとんどは学校として認可されています。グループホームエデュケーションの場と位置づけられています。フリースクールには、「学校」が合わないという子どもと、ホームエデュケーションを希望して入学する子どもとがいます。国が定めた試験を受ければ進学も可能です。

——朝倉さんとフリースクールとの関わり、そしてウクライナとの交流のきっかけは？

私は、学生時代にフリースクールをテーマとする研究を始めました。子どものころ転校が多くて苦労したことや、いとこが不登校になったこ

と、また、留学先のイギリスでフリースクールの子どもが「自分のことを大事にしたいから、ここにいるんだ」と言うのを聞いて関心を持ち、フリースクールで活動してみることにしました。そして、その後も、研究をしながらフリースクールのスタッフをするという2足のわらじを履き、1999年に新しいオルタナティブ大学を開設します。

ウクライナとの関係は、1997年にイギリスで開催したIDEC（国際デモクラティック教育大会）に参加したことから始まりました。94年に、ホームエデュケーションの調査で知り合った方に誘われたのが参加のきっかけです。IDECで知り合ったウクライナの人たちから、「翌年にはウクライナで開催する」と声をかけていただきました。1989年の東欧革命やベルリンの壁崩壊などを経て、東欧でもフリースクールができ始めた頃でした。

——ウクライナと日本のフリースクールとの違いは？

フリースクールが母親たちの声をもとにつくられたという点ではウクライナと共通していますが、社会の見方としては、ウクライナでは子

も主体の学びの場、日本では不登校の受け皿というイメージがあります。日本では、不登校の子どもは弱い子とかデリケートな子だと見られ、しおらしくしてないと避難されることもあります。私は、東京シユールのスタッフを経験しましたが、子どもが活発に活動すると、「そんなに元気なら学校に戻れ」と社会からクレームを受けました。元気がないかわいそうな子がいるなら、フリースクールの存在を認めるというわけです。

そして、先ほどお話したように、ウクライナではフリースクールの創始者に母親が多いため、生徒の母親の想いや要望に耳を傾け、必要に応じて変えていく柔軟さがあります。

——ウクライナのフリースクールの現状について

現在、フリースクールの関係者100人ほどとやりとりをしています。ロシアのウクライナへの軍事侵攻により、フリースクールによって国内避難者の支援拠点として活動をしています。たとえば、炊き出しや寝る場所を提供したり、私たちがらのものを含む世界からの寄付で服や医薬品を買って、それを必要な人

に渡しています。フリースクール関係者たちは、自分たちの今の体験を発信し、多くの人に知ってほしいと言っています。ニュースでは報道されづらい事柄もあるため、私たちは小さな窓口であっても開いておき、現地の声届けたいと思っています。

日本でのデモクラティック教育を考える

——他国のフリースクールの特徴は？

たとえば、韓国では、最初のフリースクールができたのが1990年代。日本より歴史は浅いのですが、息苦しい学歴社会の中で、市民がフリースクールをつくりはじめ、現在は100校くらいあります。国の定める基準が満たされていれば、フリースクールが学校として認可され国からお金が支給されます。その審査には市民が入ります。ソウルでは、フリースクールに一般の学校の生徒が1年間、内地留学でき、それが単位として認められます。そして、一部の大学では、フリースクールやホームエデュケーションで自由な学びをしてきた人の受験枠をもうけています。日本と韓国とは法制度が似てい

るため、参考になるのではないかと思います。

フィンランドでは学習指導要領は一つしかないのですが、義務教育期間中であれば、いつ何を学ぶかは個人が決めることができます。たとえば、日本では小学1年生で学ぶ漢字が決まっていますが、フィンランドならそれを中学生になってから学んでもいいのです。

また、ニュージーランドでは国の財政破綻をきっかけに教育改革をし、ホームエデュケーションを認め、教育費の一部をホームエデュケーションに支給しています。子どもが地域の図書館で日中過ごすことも認められています。日本では、子どもが学校へ行かずに図書館や児童館で日中を過ごすことはできないため、フルタイム勤務ができずに家でお子さんをみている親御さんもいます。

日本でも教育改革についての議論はされていますが、実際には変えることに前向きではないと感じます。逆に、子ども主体の学びから遠ざかっているのかもしれない。部活動の指導や先生数の減少などの負担により心身に不調をきたし、先生が不登校になるケースも増えていて、そのご相談に乗ることもあります。

—— 雫穿大学がめざしていることは？

雫穿大学の建物の名前は「東京DEW」です。これは、デモクラティック・エデュケーション&ワーキングの頭文字。私たちは、自分と相手を尊重するのがデモクラシーだと考えていて、それは学ぶことも働くことも同じだという想いがあります。同じ建物を共有しているワーカースコープでは「協同労働」という言葉を使っていますが、協同労働はデモクラティック・ワーキングと同じことだと考えています。雫穿大学は、ワーカースコープから助成金をいただき、不登校のお子さんや親御さんとともにホームエデュケーションを行っていて、ワーカースコープの方々には、私たちと一緒にデモクラティック教育を経験していただいています。私たちは、お互いを尊重しながら学び働くという生き方を模索していきます。



TDU・雫穿大学

ひとこと用語解説

＊本文に必要な解説を最小限にまとめています。

オルタナティブ

「主流なものに代わる新しい選択肢」「代替案」を意味する形容詞。「オルタナティブスクール」と言う時は、現在の公教育とは異なる教育理念や方針によって運営している学校を総称することが多い。

フリースクール

学校に代わる学びの場。フリースクールの概念は多義的だが、デモクラティック教育をベースに豊かな学びをめざすフリースクールが世界で展開されている。

デモクラティック教育

学習者が主体として尊重され、安心・安全な場で学ぶこと。学ぶ内容や学ぶ場のルールは学習者自身が決める、ということも含まれる。

サマーヒル・スクール

1921年、A.S. ニールによりドイツで創立され、翌年、イギリスに移転。子どもの自由と学校の民主的な運営を特徴とする。世界初のフリースクールと言われる。

ペレストロイカ

ソ連のゴルバチョフ政権が掲げ、1986年以降に進めた改革。「再編」「立て直し」の意。ソ連の崩壊へとつながった要因の一つとされる。

ストークファミリースクール

1990年設立。ウクライナのフリースクール運動の草分け。1999年

にユネスコスクール（ユネスコの理想を実現する、平和や国際的な連携を実践する学校）として認定される。

マイダン革命

首都キーウにある「独立広場（マイダン）」を中心に行われた民衆運動。親欧米派と親ロシア派が対立し、前者の政権が誕生した。その後、ウクライナでは民主化が進む。

ホームエデュケーション

家で学習を進める教育スタイルのこと。

IDEC（国際デモクラティック教育大会）

フリースクールやデモクラティック教育など、自由な学びを実践したり、関心のある人びとが集い、交流したり、経験を共有する場。毎年1回、開催されている。

東京シューレ

フリースクールの運営を中心に、不登校の子どもとその親への支援活動を行うNPO法人。1985年設立。

ワーカーズコープ

働く人びとや市民がみんなで出資し、経営にみんなで参加し民主的に事業を運営し、責任を分かち合っ、人と地域に役立つ仕事を自分たちでつくる協同組合。（日本労働者協同組合〈ワーカーズコープ〉連合会センター事業団のホームページより）。

緊急ウクライナ支援

TDU・雫穿大学では、ウクライナにおいて国内避難者の支援を行っているストークファミリースクールを含む2つのフリースクールへの支援金を募っています。支援金については、2校に直接送金し、おもに避難者の生活や医療に必要な支援に充てられています。

ウクライナ支援活動
の詳細情報ページ



■支援金として寄付する

[ご寄付受付口座]

興産信用金庫 新宿支店 金融機関コード 1305 店番 033

口座番号 0321280

口座名義 ジブシラシキイキルコトヲアキラメナイ

(自分らしく生きることをあきらめない基金)

■画像購入で支援する

ストークファミリースクールの子どもたちが描いたイラストを画像データにして販売しており、売り上げは全てウクライナの2つのフリースクールへ支援金として届けられます。

※上記販売ページは、TDU・雫穿大学の卒業生が立ち上げた社会的企業「創造集団 440Hz」が作成しています。



ご購入はこちらから



(上) 国内避難者を受け入れているストークファミリースクール OG が始めたフリーダムスクールの様子。(下) 食事をするとところが限られているので卓球台で食事を摂る。(写真提供：NPO 法人 TDU・雫穿大学)

災害時に向けた地域の活動と

「災害時のための市民協働 東京憲章」

三藤 和寛(武蔵野市民社会福祉協議会)



市民協働 東京憲章

使用する書類などに「やさしい日本語」を取り入れることにつながりました。

■訓練の場だけではなく、

日頃から顔を合わせる

現在使用しているセンターの運営マニュアルもこれらの団体と一緒に策定しています。目指すのは「初めて読んだ人でもセンターの運営のことがわかり、一緒に活動できるマニュアル」です。一昨年はコロナ禍でのセンター運営を想定した改訂作業も行いました。いろんな人たちと一緒にセンターを運営するからこそ、わかりやすさにもこだわっており、今後も随時内容の見直しを行っていく予定です。

また、お互いが顔を合わせ、つながれる場として被災者支援に関するワークショップも開催してきました。今年度はやさしい日本語を学ぶワークショップを実施する計画です。

■市民社協と東京憲章

市民社協では東京憲章の策定ワークショップに参加させていただく機会をいただきましたが、内容を検討していく中で改めて「多様性」と「平時からの取り組み」の大切さを感じるとともに、武蔵野市でのこれまでの取



災害ボランティアセンター訓練時の多言語対応の様子



やさしい日本語

り組みを振り返り、その大切さを確認することができました。これまでの活動も、基本方針の「2 支援や配慮が必要な方々に寄り添い、『いのち』と『くらし』を、みんなで支えます」や「3 支援者は情報を交換し、そして、ともに支援活動に取り組みます」に関わるものです。今年1月に実施した訓練の際にも東京憲章を学ぶ時間をつくり、参加者全員で共有しました。これからのこの憲章のもと、災害時に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。

*地域住民に福祉への関心や理解を広げ、隣近所で困っていることがあればお互いに助け合えるような関係づくりをしていくための住民組織。

■多様な人たちの声をセンターの運営に活かす

災害時にはこれらの団体と一緒にセンターを運営することを目指しており、訓練の際も参加団体の皆さんは市民社協と同じ「運営スタッフ」側で参加します。経験や立場も関係なく対等に意見や改善策を出し合ってもらうことで、自然に協力し合う関係性が生まれています。

更に、この訓練には地域社協^(*)や防災推進員、自主防災組織・避難所運営組織などの災害時に地域で被災者支援に関わる方々も「ボランティア役」として参加をお願いしています。参加することでセンターを知ってもらい、支援が必要な被災者をセンターに繋げてもらうためです。

また、近年では聴覚障害者や外国人も訓練に参加しています。災害時により配慮が必要な人たちもセンターを利用することを想定し、運営に関する意見・改善点をもらうことで、センタースタッフの対応スキル向上や、センター内の案内表示や

■災害時には災害ボランティアセンターの運営を担う

武蔵野市民社会福祉協議会(以下、市民社協)では、市民の参加と協力によって地域福祉を推進しています。身近な地域で住民同士が進める支え合いの活動の支援やボランティアセンターの運営など「住民が主体的に参加できる」活動の支援や活動のきっかけづくりを進めることで、「ささえあいのまちづくり」を目指しています。また、災害時には地域での被災者支援を行う役割を担うこととなっており、災害時に向けた取り組みも日常的に進めています。

市民社協の災害時の活動の中核となるのが災害ボランティアセンター(以下、センター)の運営です。市民社協では2006年よりセンターの運営訓練を実施しており、市民社協職員の他に国際交流協会、ボランティアセンター運営委員会、青年会議所、災害ボランティアグループ、市内の大学のボランティアサークルなど様々な団体が参加しています。



*当センタースタッフによるコラム



『戦争とバスタオル』安田浩一（文） 金井真紀（文・絵）／垂紀書房（2021年）

湯に浸かりて見えしもの

「川柳の選者、うちがやっているんですよ」と、NPO法人シア大楽の方がくださったのが『1010』というフリーペーパーだった。読み方は「せんとう」で、東京都浴場組合（東京都公衆浴場業生活衛生同業組合）が発行していた（現在は、「WEB1010」に移行）。

それを機に『ふらり湯めぐりマップ』の存在を知り、購入した。東京の全銭湯がマップ付きで掲載されていて、付録として「銭湯お遍路巡礼スタンプノート」がついており、88か所の銭湯のスタンプを集めると、認定証がもらえるのだ。これに挑戦しようと思いついた。

銭湯といっても、富士山の壁面が残るノスタルジックな銭湯もあれば、スーパージョウと見紛う美しい銭湯もあり、また、ライブを開催するなど湯に浸かる以外の仕掛けを展開していたりと、それぞれ特徴があり、うたい文句をつけるなら「百風呂百色（ももいろ）」といったところだろう。私にとって、銭湯はとても魅力的な場所となった。

数年かけて88か所の「巡礼」は果たした。が、後半は連れ風呂仲

間がいなかったら断念していただろう。行ったら廃業していた、ということが3回あった。私が行った銭湯は90ほどで、そのうちの3軒が閉じていたことを考えると、残念ながら廃業スピードは速いと感じる。

海外でも私は、風呂的な場があれば足をのばす。タイの山岳地帯での川浴や、客の背中を流す「三助」がいたインドネシア・バリ島の温泉、現地の人で賑わうラオスのハーブサウナなど、どれも印象深い。

誰とも交流できずに入湯したのは、台湾の北投温泉。水着がなく公衆浴場が利用できず、ホテルの日帰り温泉を利用したら終始独りぼっちだったのだ。その帰途の車中で、この温泉の歴史を知った。ここはドイツ人が発見し、大阪商人が温泉旅館をひらいたのが最初で、日本統治下で発展したのだそう。

複雑な気持ちになった。アジア諸国には戦争の爪痕が残る場が少なくないが、北投温泉は観光スポットになっていて負の遺産として残されたものではない。創業者の大阪商人については知ることができるが、当時の地元の人を利用

できたかなどの情報は出てこない。

北投温泉を調べる過程で、『戦争とバスタオル』という本に行きついた。帯には「タイ、沖縄、韓国、寒川（神奈川）、大久野島（広島）——あの戦争で『加害』と『被害』の交差点となった温泉や銭湯を各地に訪ねた二人旅。」「至福の時間が流れる癒しのむこう側には、しかし、かつて日本が遺した戦争の爪痕と多くの人が苦しんだ過酷な歴史が横たわっていた。」とある。

著者であるジャーナリストとイラストレーターが、湯の先にある戦争の背景を見つめて書いた本だ。出会った人と語り、笑ったり憤ったりする二人とともに風呂旅をしている感覚で読んだ。私は、北投温泉で感じたモヤモヤから本書と出会った。これから銭湯や温泉に浸かる際には、湯が背負うものにも想いを馳せたいと思う。

（秋池智子）



WEB1010

非正規雇用、シングル女性として 生きるということ

篠田さん

正社員と非正規

もともと、正社員として働いていました。待遇はよかったです。当時は若さもあって、安定よりも自分がやりたい仕事をしたくと、3年目で退職しました。その後、アルバイトをしながら学校に通っていましたが、結果的にそのアルバイトが現在の仕事になり、フルタイムの非正規雇用で働いています。年齢を重ねていくと、人生設計やお金のことをどうしようか、という問題が見えてきました。また数年前、当時の上司と折り合いが悪く（パワハラも受けていた）、そういうときに非正規という立場がものすごく不利であることに気がつきました。20年近く、きちんと働いているのに、評価が得られないというモヤモヤもありました。

非正規雇用については、履歴書を書くときやクレジットカードをつくるときなどに実感することがあります。また、婚活をしていた時期に、結婚相談所の方から、「非正規なの？」と聞かれ、プロフィールの記入の仕方について変えた方がよい、とも言われました。職場では、勤続年数に対してとくに評価がなかった

り、保障がないところが理不尽だと感じていました。他の正社員よりよい業績を上げても、「そうか、良い結果が出たね」ぐらいです。

とは言え、正社員になったときに負う責任、お給料があがってもすぐ仕事量が増えるので、賃金に見合うのかな、という気持ちもあります。自分が一度も正社員になっていなかったら、「（正社員に）ならなきゃ」という焦りがあつたかもしれません。最初に勤めた正社員3年間で、ごくつらかった経験があるので、そこから自由になった喜びがありました。ですので、現在は正規雇用になるというよりは、生きていくためのお金に対する不安の方が大きいですね。

職場の同僚や友人とも 違う仲間に出会って

趣味の講座に参加することがあるのですが、そこで既婚者の方々とお話しするときに、「この人シングルなんだ」という視線を向けられることがあります。趣味の集まりなので、その話題で仲良くなりたいたいのですが、境遇が違っていると、「ああ、そうそう独身だもんね。いいね、自由で」とか「お子さんいないんだよね」の

ように言われることもあります。こちらは仲良くなりたいたいののに、相手から「あなたは違うのね」という雰囲気になった時は、ちょっと悲しくなりますね。

あと、結婚していないということ、ちょっと面倒な対応をされたりすることがあります。例えば、シングルであることを伝えると、「まだ（結婚や出産が）いけるでしょ」と。それは気遣いでも、ほめ言葉でもありません。性別を問わず、「女性はこうあるべき」という固定観念が強い方が結構います。結婚している人になんで結婚したの？と聞かれないにシングルにはなんで結婚しないの？と聞くのです。不思議です。聞かれたくないことを相手に言わせないように話をさりげなく変えたり、うまくかわしたりなど、自分で避ける術は身につけてきたのかもしれない。

数年前、男女共同参画センター横浜フォーラムで、キャリアコンサルタントを無料で受けられることを知り、相談に行きました。その帰りに、35歳以上の非正規シングル女性を対象にした、「しごととくらしのセーフティー講座」のチラシを見つけ、参加することにしました。

講座内容は、非正規シングル女性

人生には、予期しないことや、自分で選ぶことができない状況・出来事に直面することがあります。私たち一人ひとりが、自分の人生における「当事者」です。「当事者の歩み編」では、さまざまな経験や状況を生きる方々にお話をうかがいます。

にとつての健康や仕事、住まい、生活設計とお金の使い方など、今後暮らしていく上でどうすればよいかなどの話でした。一年を通じて開講されたのですが、参加者で話し合った

り、ワークショップをする時間があり、何人かと顔なじみになりました。

講座が終わってから、一年間、フォーラムの会議室を無料で借りられることになり、数人に声をかけて一度集まりをもちました。そこで、みんな

で話したり分かち合える場があると

いいよね、と声があがり、じゃあ来月もやろうか、と続いていくうちに、現在の「によきによき会」の活動につながっています。

仕事のこと、住む家のこと、今後の人生などに悩んでいるとき、友人に相談するのはちよつと違って。

働き方や生活の仕方が、まったく同じではないにしても、メンバーとは

悩みに対しての向き合い方が似ていたり、分かち合える部分がたくさんあります。また、職場の同僚には話

せないことを共有できるのも大きいと感じています。グループには来なくちやいけないという義務もないで

すし、お互い深入りしすぎなかったり、ちよつと離れることもできたり、

そういう距離感がちょうどいいです。

いろいろな人に相談する

非正規という働き方には、副業が

しやすかったり、自分のために時間とお金を使いやすくなるという面も

あります。生きていく中でうまくいかないことがあつたら、何でだろう

というふうに考えることもありすが、自分自身では、非正規だから、

シングルだからと、あまりラベリングはしていません。ただ、大人にな

ると、仲間をつくるのが難しくなったりしますが、仕事や家族、学生時

代の友人とは違う別の場所に仲間（によきによき会のメンバー）がい

るといふのは良いですね。好きなことや趣味などはそれぞれ違うのです

が、非正規であり、シングルであつたからこそできた仲間だと思つてい

ます。

自助グループをとおして、いろいろな価値観を勉強できたのが自分

とつてすごくよかつたです。「こうでなきゃダメ」ではなく、どんな人

であつても相手の意見を尊重したり、みんなが個々の自分であること

を尊重できる世界ですね。自助グループをやってみないとわからな

かつたです。小学校や中学校など教育の早い段階で、柔軟な発想をした

り、人生で必要なお金の使い方や、人とのつきあい方などを身につけると良いのにも思います。また、

親の介護が必要になったとき、どこに相談すればよいかとか、出産のこ

ととか、学校の勉強以外に、早いうちから知つておいた方がよかつたこ

ともたくさんあります。そして、職場で、不満に感じていることを言え

そうでなかなか言えずに、自分の中に抱えてしまうことつてありますよ

ね。自由に話し合える場がもつとあつてもよいし、社会システムとし

て変えていった方がよいのでは、とも思います。

私の場合、職場で関係がうまくい

かなかつた上司がいなくなり、だいぶ楽にはなりましたが、パワハラを

受けていた時期はもう何をすることも嫌で、とてもきつかつたですね。市

や県にある複数の場所に相談したり、どうにか解決しようと模索して

いました。今は、インターネットがあるので、迷つたときは調べることが

できます。でも、どこから手をつければよいかわからないときには、

臆せず、助けになる場所に相談してほしいと思います。一つの場所で一

つの結論を出すのではなく、複数の場所に相談して考えることも大事ですね。一か所で何か言われたとき、

そこだけがすべてだと心が折れてしまいましたが、また別の違う意見を聞くことで考えなおせることもありま

す。心無い言葉や理解のない人、価値観の違いに対して我慢する必要はないし、我慢するところを間違えな

いでほしい。

今、生きているあなたが、あなた自身を裏切らずに大切にしてほしい

と思います。



イラスト フローラル信子

読者の声

～本誌377号より～

読者の皆さんからいただいたアンケートの一部をご紹介します。

◆「特集」「シェアの文化が生まれる」

・さまざまな「シェア」は、環境問題への対応にも、多くの人をゆるやかにつなげる場にもなり、今の社会に必要なことをかなえる方法だと感じた。特にコミュニティガーデンの記事は、いつも料理をしていて、生ごみをどうしたら減らせるかについてよく考えるが、一石何鳥にもなっていて素晴らしいと思った。

・シェアの文化が広がり、他人や地域の人の関わりが増えるのはとても良いことだと感じる。しかし一方で、なにをどこまでシェアできるのかを判断するのは難しいこともあると思う。

◆「変わりゆく社会とボランティア・市民活動」

・LOUDのような居場所がまたできてほしいです。相談者の高校生の話を読んで、胸が痛くなりました。間違はなく多くの方の心の支えになっていたのだと思います。26年間活動、本当にお疲れ様でした。

◆「市民活動用語のキソチシキ」

・聞いたことはあるけれど、自分の言葉では説明できない用語がわかりや

すく解説されていますね。イラストも可愛いです。言葉にまつわる取組の好事例もぜひ紹介してください。

◆「あすマネ」

「初めての事業計画・予算書」

・ボランティア活動の経験がない私でも、とても分かりやすくまとめられていると感じました。ただ、どちらかと言うと苦手意識のあるトピックスでしたので、読むのが大変でした。挿絵などがあると多少、印象が違ってもいいかもしれません。「TVAC」の略称を知らず、意味を調べてしまいました。

◆「いいものみらいつけた！」

地域作業所 hana

・仕事に人を合わせるのではなく、「人に合わせて仕事を創る」という表現が、本来の労働の在り方なのではないかと感じた。

・大きな写真でわかりやすかったです。店の地図があれば尚嬉しいですね。

お気軽にご意見・ご感想をお寄せください。



※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

東京ボランティア・市民活動センター

(TVAC: Tokyo Voluntary Action Center)

<http://www.tvac.or.jp>

東京ボランティア・市民活動センターは、ボランティア活動をはじめとするさまざまな市民の活動を推進・支援しています。どうぞご利用ください。

利用 *ご利用人数はホームページでご確認ください。

会議室 会議室A・B(各40人)・C(15人) 無料
※会議室AB通し(80人)
貸出機材 印刷機(2台)紙持ち込み、点字プリンター 他
申込み 4ヶ月前から電話で受付(03-3235-1171)

情報提供

最新のボランティア・市民活動情報は、センターのホームページでご覧いただけます。<http://www.tvac.or.jp/>

開所時間 *ホームページでご確認ください。

火曜日～土曜日: 9時～21時 / 日曜日: 9時～17時
(月・祝祭日・年末年始除く)

交通アクセス

JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線 出口B2b)
飯田橋駅下車

ネットワーク

本誌のご案内は上、
バックナンバーにつ
いては下のQRコー
ドからご覧ください。



発行人 山崎美貴子

編集委員 五十嵐美奈(興望館)
上杉貴雅(オレンジフラッグ)
江尻京子(東京・多摩リサイクル市民連邦)
亀川悠太郎(葛飾区社会福祉協議会)
小池良実(岡さんのいえ TOMO)
齋藤啓子(武蔵野美術大学 造形学部教授)
社会学ゼミ(TDU-豊栄大学)
中原美香(NPOリスク・マネジメント・オフィス)
まつばらけい(フリーライター)
渡戸一郎(明星大学名誉教授)

編集・発行: 東京ボランティア・市民活動センター
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
セントラルプラザ10階
TEL: 03-3235-1171 FAX: 03-3235-0050
E-mail: nw@tvac.or.jp

印刷: (株)丸井工文社
デザイン: 東京ボランティア・市民活動センター / (株)丸井工文社
表紙イラスト: フローラル信子

2022年6月20日発行(通巻No.378)
ISBN 978-4-909393-39-5 C2036
定価 400円(本体364円+税10%)
本誌掲載記事の無断複製・転載を禁じます。





いいもの みい〜つけた!

このコーナーでは、ボランティア・市民活動・福祉施設のグッズや作品を紹介します。

Vol.
37

鉄の街で、 鉄を用いたまちづくり

【ボルタ工房】のボルタは鉄の街・室蘭生まれのボルトやナット、皿ネジ、ワッシャーなどを半田づけしたボルト人形のことで、2004年に開催した鉄を親しむイベント「アイアンフェスタ」の体験溶接で製作したボルト人形が好評だったため、5cmに小型化し2006年4月に15種類を一般発売しました。現在、100種類のボルタの他、女の子ナッティシリーズなど約130種類以上の製品を販売しております。また、アイヌ文化を広めるお手伝いができればと思い、モルエラニボルタやアイヌ文様を施した、ステンレスのしおりなども販売しております。Instagramにて製品情報など発信しておりますので、ご覧頂ければ幸いです。※当商品は屑鉄工房の「ボルトマン」等世界中のボルト人形を参考にして製作されたものです。

特定非営利活動法人テツプロ



所在地 〒050-0085 北海道室蘭市輪西町 1-32-6

TEL 0143-47-8233 FAX 0143-47-8233

E-mail bolta@tetsupro.com

HP www.tetsupro.com

<https://www.facebook.com/muroranbolta/bolta.tetsupro>



1 定番商品となりますボルタは100種類その他、ナッティシリーズ7種類リクエストシリーズ9種類ございます。

2 定番商品その他、不定期に個数限定での製品をいろいろと販売しております。特注品も承っておりますが、お問い合わせください。

3 置物のボルタ以外にも小さいサイズのボルタやナッティで、マスコットやキーホルダー等実用的なものも多数ございます。

4 室蘭坂下家本家に伝わる100年物の着物の文様を用いて製作されたタペストリーの文様をパッケージやしおりに取り入れました。



(公財)SOMPO福祉財団

2022年度主な助成金の募集(公募)

社会福祉分野で活躍するNPOへの助成などを通じて、
地域福祉の向上に貢献することを目指しています。

事業名 (募集時期)	事業の内容	対象となる団体 対象地域・助成金額
自動車購入費助成 (6/1~7/8)	自動車を購入する際の資金を助成 ※本年度から上限を150万へ増額	・特定非営利活動法人 ・西日本地区に所在する団体 (2021年度は東日本地区) ・1件150万円上限(総額1,500万円)
NPO基盤強化資金助成 住民参加型福祉活動資金助成 (6/1~7/15)	地域住民が主体となって、包括的な支援を行なう活動に必要な資金を助成	・5人以上で活動する営利を目的としない 法人格のない団体 ・東日本地区 (2021年度は日本全国※コロナ対策の為) ・1団体30万円上限(総額450万円)
NPO基盤強化資金助成 組織および事業活動の強化資金助成 (9月~10月上旬予定)	「組織の強化」と「事業活動の強化」に必要な資金を助成	・特定非営利活動法人、社会福祉法人 ・東日本地区に所在する団体 (2021年度は西日本地区) ・1団体70万円(総額1,000万円)
NPO基盤強化資金助成 認定NPO法人取得資金助成 (9月~10月上旬予定)	認定NPO法人取得に必要な資金を助成	・認定NPO法人の取得を目指す社会福祉分野の特定非営利活動法人 ・日本全国 ・1団体30万円(総額300万)



自動車購入費助成

新しい自動車での送迎、配達が楽しみ♪



組織および事業活動の強化資金助成

難病で入院する子どもたちのためのコンサートを開催♪

住民参加型福祉活動資金助成

高齢者と子どもたちが一緒にPCでお絵かき活動♪



認定NPO法人取得資金助成

フードバンクで子ども支援。認定取得により地域の信頼強化に！



SOMPO福祉財団Web ⇒ <https://www.sompo-wf.org/>